大会宣言が拓南製鐵(株)石灰工場の松田智喜氏により読み上げ、自主的な労働衛生管理活動の一層の促進を図ることを宣言し採択されました。指差し唱和では、(有)マル井建設の新里一氏を代表に、参加者全員で衛生週間スローガンの指差唱和を行いました。

最後に、建災防沖縄北部分会の仲程分会長より「誰もが安心して働ける職場を尚一層築いて参りましょう。」と閉会挨拶がありました。

宮古地区

9月4日（水）宮古島市中央公民館多目的ホールにて、令和6年度宮古地区衛生大会を開催32事業場98名が参加しました。

参加者全員で黙とう後、港災防沖縄総支部砂川宮古支部長の挨拶により開会し、労働基準協会宮古支部渡真利支部長からは、各職場における労働衛生管理活動を通して、労働者の心身の健康確保と快適な職場環境を目指した取り組みをお願いしたい旨のあいさつがありました。

宮古労働基準監督署井上茂樹署長からは、「過労死等に関する労働相談は当署に対しても度々寄せられており、過労死等を防止するためには、働き方改革と相まって、長時間労働による健康障害の防止対策が必要である。宮古地区の職場定期健康診断における有所見率は全国平均値を大きく上回っており、宮古監督署としては、労働安全衛生法に基づく定期健康診断の着実な実施と実施後の措置、職場のメンタルヘルス対策等について指導を実施するとともに、労働者50人未満の事業場に対しては、無料で保健指導や相談を受けることができる『宮古地域産業保健センター』を活用し、必要な措置が着実に実施されるよう進めていきます。」旨の来賓あいさつがありました。

同監督署の大久保監督官からは、週間の趣旨と関係機関が一体となり健康経営に取り組む事業場をサポートする「うちなー健康経営宣言」についての説明がありました。

特別講演では、沖縄県立宮古病院消化器内科の新里雅人氏より「適正飲酒について」と題して、宮古島の酒文化と現状、アルコールがもたらす健康障害。個人として取り組むことは適度な飲酒と定期健康診断、趣味などでアルコール以外の気分転換を進めること。職場でのストレス管理プログラムや健康的な社員イベントの導入を呼びかけました。

大会宣言が、建災防沖縄県支部宮古支部分会の友利分会長より読み上げられて採択され、建災防沖縄県支部宮古分会安全指導者の池田淳也氏を筆頭に参加者全員でスローガンに向かい指差唱和が行われ、労働衛生の意識を高めました。

八重山地区

9月4日、石垣市市民会館中ホールにて令和6年度八重山地区労働衛生大会を行い、59事業所86名が参加しました。

八重山地域産業保健センターの宮良代表の開会挨拶の後、労働基準協会八重山支部安全衛生部会員を筆頭に、参加者全員で全国労働衛生週間のスローガンの指差唱和を行い労働衛生の意識を高めました。

共催者を代表して労働基準協会八重山支部宮良支部長が挨拶をし、「経営トップがリーダーシップを発揮し、働く環境を整備し、安全と健康を守ってほしい」と呼び掛けました。

八重山労働基準監督署渋谷雄太署長、中山八重山市町会会長及び沖縄県八重山事務所長濱所長から来賓挨拶があり、渋谷署長からは、「沖縄県の定期健康診断の有所見率は12年続いた全国最下位を遂に脱したが、八重山地区をみると1.5ポイント上昇し65.2%となった。生活習慣に起因する項目が高い割合を示しており、これが全体の数字を押し上げる要因と考えられる。有所見の改善には、事業者の取り組みだけではなく、労働者自身による日常の健康管理が何より重要であり、定期的な運動やバランスの取れた食事、十分な睡眠など、できることから取り組んでいただきたい。」旨挨拶がありました。

同監督署の田村監督官からは、全国労働衛生週間の取組みについての説明がありました。

特別講演では、八重山保健所健康推進班班長竹本のぞみ氏による「熱中症と健康管理」と題した講演が行われ、熱中症対策と応急手当、健康管理と生活習慣病の重要性についての説明がありました。

大会宣言は、港災防沖縄総支部八重山支部の新川支部長により読み上げられ、参加者全員の総意により採択されました。

最後に建災防沖縄県支部八重山分会の平良分会長の挨拶により閉会しました。